

授業科目

精神看護学演習

担当教員名 西川 薫、平井 孝治、金谷 光子	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○	◎	○

授業の概要

精神科看護において重要な患者理解を多角的な視点から学ぶ。また、プロセスレコードを用いて他者理解、自己理解、臨床状況の理解などを学ぶ。さらに、事例をグループ学習で検討し、患者理解をおこなったうえで具体的な支援の方法、精神障害者の地域生活を支援するために必要な社会資源や技法を学習する。

授業の目的

精神科看護の基礎となる患者理解に必要な知識と技法を修得する。
精神科看護の実践に必要な知識と技法を修得する。

学習目標

1. 患者理解において人間関係論の視点から述べることができる。
2. プロセスレコードを通して自己理解、他者理解、状況理解を述べることができる。
3. 事例検討を通して対象者を多角的に理解し看護の方向性について討議することができる。
4. アセスメントに基づいた看護計画を立案することができる。
5. 看護実践に必要な社会資源と技法について説明することができる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	(1) 援助技法としてのプロセスレコード	講義	西川 薫
2	(2) 援助技法としてのプロセスレコード	講義、実習体験に基づいたプロセスレコードの作成	西川 薫
3	(1) プロセスレコード検討会	グループを編成し検討会を実施	西川 薫 平井孝治 金谷光子 他
4	(2) プロセスレコード検討会	グループを編成し検討会を実施、全体討議	西川 薫 平井孝治 金谷光子 他
5	(1) 事例を用いた検討会（統合失調症、うつ病、境界性パーソナリティ障害）	グループ学習（PBL）：各グループは3事例の中の1事例を検討する。	西川 薫 平井孝治 金谷光子
6	(2) 事例を用いた検討会（統合失調症、うつ病、境界性パーソナリティ障害）	グループ学習（PBL）：各グループは3事例の中の1事例を検討する。	西川 薫 平井孝治 金谷光子
7	(3) 事例を用いた検討会（統合失調症、うつ病、境界性パーソナリティ障害）	グループ学習（PBL）：各グループは3事例の中の1事例を検討する。	西川 薫 平井孝治 金谷光子
8	(4) 事例を用いた検討会（統合失調症、うつ病、境界性パーソナリティ障害）	グループ学習（PBL）：各グループは3事例の中の1事例を検討する。	西川 薫 平井孝治 金谷光子
9	(1) 事例（PBL）検討発表会	2会場にて発表会（発表：7分、質疑：5分、全体討議：20分）	西川 薫 平井孝治 金谷光子
10	(2) 事例（PBL）検討発表会	2会場にて発表会（発表：7分、質疑：5分、全体討議：20分）	西川 薫 平井孝治 金谷光子
11	(1) その人らしさを理解し、意思を尊重する技術、症状アセスメントを育成する技法	講義、ビデオ	西川 薫
12	(2) その人らしさを理解し、意思を尊重する技術、症状アセ	講義、ビデオ	西川 薫

	メントを育成する技法		
13	(1) セルフケアの拡大に関する技法、対人関係能力の強化に関する技法	講義、ビデオ	西川 薫
14	(2) セルフケアの拡大に関する技法、対人関係能力の強化に関する技法	講義、ビデオ	西川 薫
15	看護実践に必要な社会資源（障害者年金、障害者総合支援法：精神通院、高額療養費、グループホームなど）	講義、ビデオ	西川 薫

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	精神看護の基礎 精神看護学〈1〉(系統看護学講座 専門分野)	武井麻子	医学書院	2014年	2,200円+税	
	精神看護の展開 精神看護学〈2〉(系統看護学講座 専門分野)	武井麻子	医学書院	2014年	2,200円+税	
参考書	実践看護技術学習テキスト 精神看護学	野嶋佐由美	日本看護協会	2002年	4,212円	
	精神看護学 II 精神臨床看護学 [第6版]	川野 雅資 編集	ヌーヴェルヒロ カワ	2015年	2,200円+税	
その他の資料						

評価方法

各授業において記入したリフレクションシート：20%程度
プロセスレコード、PBLへの取り組み：30%程度
課題レポート：10%程度
筆記試験：40%程度

履修上の留意点

グループワークでは積極的な発言と事前学習が必要になります。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー：木曜日の午前
連絡先：nisikawa@nuhw.ac.jp K402研究室